



藍商人が育てた 阿波の芸能



阿波木偶



人形浄瑠璃



阿呆連

参加費
無料

徳島は、阿波踊りや人形浄瑠璃をはじめとする民衆芸能が盛んな「芸どころ」といわれてきました。その背景には、江戸時代から明治時代にかけて隆盛を極めた「阿波藍」があり、藍染料「菜(すくも)」の流通を担い、全国を雄飛した藍商人たちの活躍がありました。藍商人たちは、文化交流の担い手となり、また芸能発展のための資金援助者となったのです。今年度の歴史文化講座では、阿波の藍商人が育てた民衆芸能を体感していただきたいと思います。



開催日時

令和2年 **2月28日** 金

午後6時30分から [開場は午後6時]

会場

藍住町総合文化ホール (大ホール)

申し込み

メール、はがき、FAX、電話で
下記までお申し込みください。

※申し込みにあたっては、①氏名・②年齢・③住所
(市町村名までで構いません)
をお知らせください。

申込み先

◆藍住町藍住町総合文化ホール

メールアドレス aizumi-bunka@mb.pikara.ne.jp
住所 〒771-1292 徳島県板野郡藍住町奥野字矢上前32-1
電話番号 088-637-3344 FAX 088-637-3345

◆藍住町教育委員会社会教育課

メールアドレス syakaikyoiuku@aizumi.i-tokushima.jp
住所 〒771-1292 徳島県板野郡藍住町奥野字矢上前52-1
電話番号 088-637-3128 FAX 088-637-3153



18:00

開場

日程

18:30～18:35

開会行事

18:35～19:10

人形浄瑠璃

「傾城阿波の鳴門 十郎兵衛内の段」

《出演》太 夫 竹本友廣

三味線 鶴澤友輔

人 形 勝浦座

19:10～19:25

(休憩・舞台転換)

19:25～19:55

阿波木偶「三番叟まわし」・「えびすまわし」

「大黒まわし」・「福まわし」

《出演》阿波木偶箱まわし保存会

20:10～20:25

(休憩・舞台転換)

20:25～20:55

《出演》阿呆連

(終演)

人形 浄瑠璃

太夫 竹本友廣
三味線 鶴澤友輔
人形 勝浦座



演目「傾城阿波の鳴門 十郎兵衛内の段」

近松半二・八民平七・吉田兵蔵・竹田文吾・竹本三郎兵衛らによる十段続きの時代物です。近松門左衛門の「夕霧阿波鳴門」を書き替え、大阪に実在した傾城・夕霧とその恋人・藤屋伊左衛門の情話に、阿波徳島藩主の蜂須賀(玉木家)のお家騒動、板東十郎兵衛(阿波十郎兵衛)の巷説などを織り込んでいます。明和五年(1768)に大阪・竹本座で初演されました。

前半(順礼歌の段)のあらすじ

徳島藩のお家騒動に絡んで、盗まれた主君の刀を詮議するために阿波の十郎兵衛、お弓の夫婦は名を変え盗賊に身をやつし、大阪玉造に住んでいます。仲間から、今にも追っ手がこの家へ来るのですぐに逃げるようにとの知らせを受けたところへ、巡礼姿の娘お鶴がはるばる徳島からやってきます。お弓はすぐに我が子とわかりますが、ここで親子の名乗りをしたのでは、お鶴も巻き込んでしまうと考えます。早く徳島へ帰って父母の帰りを待つように、と言い聞かせ、涙をのんで別れるお弓。しかし、お鶴の歌う巡礼歌にたまらず後を追ってしまいます。

十郎兵衛内の段

お弓と入れ違いに、金策に走り回っていた十郎兵衛が順礼の女の子を連れて家へ戻ってきます。借金の足しに、順礼が持っているお金を貸してほしいと迫りますが、女の子は怯えるばかり。大きな声を出すので口を押さえているうちに窒息死させてしまいます。そこへ戻ってきたお弓は、おつるの遺体の前で半狂乱。ことの次第を知った十郎兵衛も茫然自失。

折から表が騒々しくなり、大勢の捕手がやってきます。十郎兵衛は捕手を追い散らし、おつるの亡骸とともに家に火を点け、二人は徳島へと帰っていくのでした。

阿波木偶 箱まわし 保存会

阿波木偶「箱廻し」や「三番叟まわし」をはじめ、徳島県独自の祝福芸や門付芸等の無形民俗文化財調査研究を目的として1995年に発足しました。

師匠の門付先を受け継ぎ2002年から徳島県内で正月の門付を行っています。県内6市7町で1060軒の民家に福を届けています。現在、全国各地の他海外での公演も多く、ミラノ万博にも出演し徳島県の魅力を紹介しました。

2019年7月には、東京国立劇場で「祝福芸」に出演。同10月には韓国国立民俗博物館に招待され人形芝居を実演しました。

<主な受賞>

- 2006年 徳島新聞賞「文化賞」
- 2009年 ユネスコ「ACCU賞」
- 2009年 徳島県「阿波文化創造賞」
- 2017年 サントリー地域文化賞

徳島県指定無形民俗文化財

<阿波木偶「三番叟まわし」とは>

阿波木偶「三番叟まわし」は、四国を代表する門付(かどづけ)芸です。千歳(せんざい)・翁(おきな)・三番叟(さんばそう)の木偶で「式三番叟」を舞い、家内安全・無病息災や五穀豊穰を祈り、えびす木偶が商売繁昌や豊漁を祈ります。

「三番叟まわし」は、徳島県独特の無形民俗文化財で、現在は阿波木偶箱まわし保存会が伝承し、正月の門付(かどづけ)を受け継いでいます。毎年、元旦から旧正月のひと月半をかけて、約1000軒を越す民家に福を運んでいます。この取組みで2017年にサントリー地域文化賞を受賞しました。

2011年元旦に放映された「ゆく年くる年」(NHK総合)や、2015年「新日本風土記・吉野川」(NHKBS)で、門付の様子が全国に紹介されました。



阿呆連

「阿波の阿の字は阿呆の阿の字」阿呆連は昭和23年(1948年)、敗戦により焼土と化した阿波徳島の地に、元の様な平和で豊かな心を取り戻そうと焼跡に雑草の芽が出るかの如く結成されました。

肩に染め抜かれた“破れ傘”のデザインは、結成当時と変わらず、先人たちが築き上げ、引き継いできた阿呆連のシンボルとなっており、昭和53年、郷土芸能として文化庁主催の日本民謡祭りの出演をはじめ、天皇皇后両陛下をお迎えしての天覧踊りや伊勢神宮での奉納踊り、諸外国への踊りなど、国内外を問わず出演しております。また、2018年5月には、アスティとくしまにて初の単独ライブを開催。2500人を越える集客を得て大反響を呼びました。

ほっかむりをして提灯を持ち、阿波武士の踊りを守り続ける勇壮な男踊り。差し足の技法を用い楽しさに美しさを兼ね備え、次々と形を変えてゆく集団美の女踊りは、阿波踊り三大主流の一角「阿呆調」と称され、鳴り物の礎となる「正調阿波ぞめき」を築き上げた達人たちと共に、数々の歴史に名を刻み現代の阿波踊り界の先駆者となっている阿呆連は、その時代時代に合った阿波踊りを創り上げています。

阿呆連 連長
森 一功

